

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	2	大学等名	県立広島大学
テーマ	テーマ I アクティブ・ラーニング		

### 【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

### 【コメント】

<優れている点>

- ・ファカルティ・ディベロッパー (FDer) を中心とした教員間の相互授業参観による授業改善に努めていることは高く評価できる。
- ・卒業生、保護者、企業などステークホルダーからの意見を集め事業の改善に生かす仕組みができており、評価できる。
- ・フォーラムの開催により成果の普及に努めているほか、高等学校におけるアクティブ・ラーニング (AL) 導入状況に関する調査を開始し、初等中等教育機関から講師を招くなど、高等学校と連携した高大接続事業に発展させていることは評価できる。

<改善を要する点>

- ・事業推進体制が全体的に上意下達型で事業の改善に向けた PDCA サイクルが明瞭に示されていない。学生、教員からの見直しの提言をくみ上げるとともに、外部評価委員会からの提言を反映する仕組みづくりに努めていくことが必要である。
- ・AL への取組が現段階では FDer を担当する意識の高い教員の努力に支えられ、一般の教員への波及は今後の課題である。教職員の AL 等教育改善への取組を業績として評価する仕組みづくりと予算の優先的配分等も急ぎ整備する必要がある。
- ・FDer 養成の内容が具体的ではないため、より明確化する必要がある。また、公立大学の特性を生かした取組のモデル化を一層推進することが必要である。
- ・学部によっては行動型学修と参加型学修が別個に運営され、また、学修ポートフォリオも一部で導入されるなどの進展が見られる。学部間の取組の差を解消し、改革を加速する全学的機能の強化が望まれる。さらに、各授業担当者が採用している行動型・参加型の「手法」がどのような内容であるのかが不明瞭である。具体化かつ明確化することが必要である。
- ・学修支援アドバイザーの人数は増えているが、年度ごとに養成した学生数は減少しており、また、活動人数実績からは養成されても活動をしていないアドバイザーの数が多いように見受けられる。制度を適切に運用するためには、学修支援アドバイザーに対する継続的なフォローが必要である。